染め方

ゴム手袋の着用をおすすめします
（Tシャツ１枚を染める場合は、下記の分量が半分になります。）

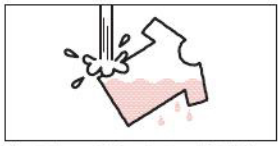
染色ポイント

- 淡色にするには染料を減らす（助剤は規定量を使用する）
- 染料は自由に混色できる

- 濃くする方法（１～３の組み合わせも可）
  1. 染色温度を上げる（90℃以上の加熱染色）
  2. 染料および助剤を増やす（1.5～2倍 ※助剤も同比率で増やす）
  3. 染色時間を長くする（30～60分くらい）

植物繊維 など
（綿・麻・レーヨン・キュプラ・ビニロン）

❶布を洗う

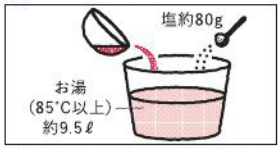


染めるものの汚れ・しみ・のり気を洗い落として濡れたままで置きます。

❷染料を溶かす

染色容器とは別の1ℓくらいの耐熱容器に染料を入れて、熱湯約500mℓで粒が残らないようによく溶かします。
※溶けにくいときはお湯を加えます。

❸染め液を作る



染色容器にお湯（85℃以上）を約9.5ℓ用意し、❷の染料と、塩約80gを加え、計約10ℓとします。

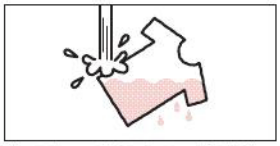
❹布を入れ、20～30分染める

濡れた❶を広げて入れ、かきまぜながら約20～30分染めます。

動物繊維 など
（絹・毛（ウール）・ナイロン・ポリウレタン・アセテート混紡品）

※繊維の性質上、急な温度変化や、粗雑な扱いをすると、繊維が縮むのでご注意ください。

❶布を洗う



染めるものの汚れ・しみ・のり気を洗い落として濡れたままで置きます。

❷染料を溶かす

染色容器とは別の1ℓくらいの耐熱容器に染料を入れて、熱湯約500mℓで粒が残らないようによく溶かします。
※溶けにくいときはお湯を加えます。

❸染め液を作る

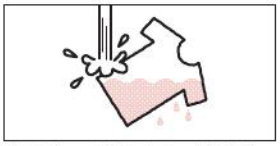
染色容器にお湯（85℃以上）を約9.5ℓ用意し、❷の染料と、酢約130mℓを加え、計約10ℓとします。

❹布を入れ、20～30分染める

濡れた❶を広げて入れ、かきまぜながら約20～30分染めます。
※毛糸・毛織物は縮みやすいので、静かにかきまぜながら染めます。また、目の粗いアミ袋に入れて染めると、縮みを防ぐことができます。

ポリエステル・ポリエステル混紡品

❶布を洗う



染めるものの汚れ・しみ・のり気を洗い落として濡れたままで置きます。

❷染料を溶かす

染色容器とは別の1ℓくらいの耐熱容器に染料を入れて、熱湯約500mℓで粒が残らないようによく溶かします。
※溶けにくいときはお湯を加えます。

❸染め液を作る

染色容器にお湯（85℃以上）を約9.5ℓ用意し、❷の染料を加え、計約10ℓとします。
※植物繊維などとの混紡品はここで塩約80gを、動物繊維などとの混紡品は酢約130mℓを加えてください。
※別売の「濃色促進剤」を使用するとより濃く染まります。

❹布を入れ、20～30分染める

濡れた❶を広げて入れ、かきまぜながら約20～30分染めます。
※加熱染色（90℃程度）すると濃く染まります。

植物・動物繊維の混紡品

混紡品を染めるときは、それぞれの繊維に必要な助剤（塩と酢）を併せて使います。

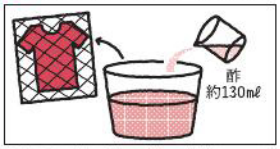
⚠ 助剤を入れる順番を間違えると染まりません。

植物繊維の工程の❶～❸

❹布を入れ、10～20分染める

濡れた❶を広げて入れ、かきまぜながら約10～20分染めます。
※毛糸・毛織物は縮みやすいので、静かにかきまぜながら染めます。また、目の粗いアミ袋に入れて染めると、縮みを防ぐことができます。

❺布を取り出して酢を入れる



布を取り出した染め液に酢約130mℓを加えます。

❻布を入れ、10～20分染める

布を染め液に戻して、さらに約10～20分染めます。

ソーピング（洗い）へ

ソーピング（洗い）

❶ぬるま湯で洗う

染め液から取り出し、ぬるま湯（30℃以上）で軽くすすいだあと、台所用液体中性洗剤を溶いたぬるま湯で洗います。
※毛（ウール）・ポリエステルは急な温度変化を与えると、繊維が縮みますので、少しずつ温度を下げながら洗ってください。

❷水ですすぐ

さらに水ですすぎます。

色止め

植物繊維など

綿・麻・レーヨン・キュプラ・混紡品は別売の「色止剤ミカノール」で色止めすると洗濯での色落ちを減らせます。※ビニロンは色止め不要です。

動物繊維など

ポリエステル

色止め不要です。

❸かけ干しして完成

脱水してかけ干しし、アイロンをかけたら完成です。
※染色したものと他のものを一緒に洗濯することはさけてください。